

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0174300517		
法人名	医療法人社団 田中医院		
事業所名	グループホーム らべんだあ・なでしこ		
所在地	厚岸郡厚岸町門静1丁目76番地		
自己評価作成日	令和3年1月31日	評価結果市町村受理日	令和3年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

施設内にある運動場を利用し法人内の専門職の助言、指導を受けながら身体機能の維持、向上に努めている。また、デイサービスとの連携により慰問行事等への参加や町主催の夏祭りに参加したり文化祭に作品を出展したりと地域住民との交流の場への参加も行っている。医療法人のため、医療との連携もとれており、看護師による毎日の確認にて体調管理等の体制も確保できている。また、コロナ禍で面会等制限しているため、I P電話やzoom等代替えとなる提供も行っている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174300517-00&amp;Se">mhiv.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0174300517-00&amp;Se</a>
-------------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 NAVIRE
所在地	北海道北見市とん田東町453-3
訪問調査日	令和3年3月4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

医療法人社団田中医院の2件目のグループホームとして、平成17年厚岸郡厚岸町門静地区に、先に開設されているグループホームと道路を挟んで向かい合って開設されているグループホームらべんだあ・なでしこは、事業所内に運動施設を有し、法人本部の作業療法士、理学療法士により利用者の状況に合わせた個別のプログラムを作成し、身体機能の維持・向上に努めています。又、法人の医師や看護師が毎日訪問しており医療面での安心感が得られています。両グループホームは運営推進会議や行事等で協力しお互いに交流しながら運営されています。法人では毎月研修が行われ、専門的な知識を身に付ける職員の育成に取り組んでいます。開設時から地域住民の理解と協力が得られており、運営推進会議を通し災害時の協力を要請し、災害連絡網に地域住民も登録されています。又、町内会長の要請で車椅子の使用方法を伝授したり、具体的な協力関係が築かれています。今年度はコロナ禍の中で、思う様に家族との面会が行えない状況にありますが、玄関でドア越しでの面会やIP電話、オンラインの使用等を促しています。ターミナルの利用者には医師の許可を得て短時間の面会を可能にし、利用者、家族の心情に配慮した対応に努めています。毎月発行している事業所便りには、利用者担当職員が手紙で様子を伝える等、細やかな対応で家族との信頼関係が構築されています。又、事業所では当直者以外にも宿泊者を配置しており、利用者、家族、職員にとっての安心感に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室や居間、皆が目に入る所に提示し、常にスタッフが個々心に留めながら業務に当てる。	法人共通の理念を目に付く所に掲示し、介護提供の指針としています。リハビリ室には「元気になるグループホームを目指します」とのリハビリの理念が具体的な説明と共に掲示しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	グループホームの夏祭り、避難訓練行事は近隣の方達へ案内状を送りお誘いしていたが今回はコロナ禍の為無観客で行った。	町内会に加入し、町内の草取りや清掃活動に利用者と参加したり、事業所の夏祭りに招待したりと交流していましたが今年度はコロナ禍で無観客開催と成っています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今回はコロナ禍の為オンライン方式で法人の家族報告会で認知症等の発表を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	避難訓練や季節行事等の活動内容や、利用者様の状況の報告を行うことで、グループホームで取り組んでいる事を知って頂く。	法人の2グループホーム合同で、利用者家族、地域自治会役員、地域包括支援センター職員の参加を得て開催し、事業所の理解とサービス向上に反映しています。	全家族に案内をしていますが、議事録は送付していない状況となっています。家族、職員と運営推進会議の情報を共有する工夫を期待します。又、包括支援センター職員の参加が得られる工夫を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	町の介護相談員が来所され現状を見て頂いたり、利用者様の声を聞いて頂く事で意見を頂き向上に勤めている。ただ、コロナ禍の為現在は休眠中。	包括支援センター主催の会議に出掛けたり、諸手続きに行政に出掛け、相談や情報交換等、連携に努めています。介護相談員が月に2度来訪し、利用者とお話をする時間をもち、サービス向上に繋げています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	スタッフミーティングにより職員が身体拘束について理解し、禁止対象となる具体的な行為、行動、言動のない支援、介助を行っている。	管理者、職員で身体拘束廃止委員会を定期的に開催すると共に法人主催の研修を開催し、身体拘束の及ぼす弊害を学び職員間で周知しています。特に不適切な言葉に注意を払う様に心掛けています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や、研修で虐待防止法について学び、利用者様と関わる中で、大切な命を預かっている事を常に自分に言い聞かせて、優しい心を忘れずに介助を行う。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	資料の閲覧、講習会の参加で学ぶ機会を設けてはいるがシフト制勤務もあり職員全体への浸透には至っておらず、活用できる支援について今後学習していきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	御家族へは納得して頂けるまでしっかりと連絡説明を行い入居後も必要に応じて随時対応している。御家族が来所された際には気軽に相談頂ける雰囲気づくりに配慮してる。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月、介護相談員の来所時に利用者の声を聞いていただいている。(現在はコロナ渦の為来所は見合わせ頂いている)また、運営推進会議にて家族、地域の方に御意見を頂き反映させている。	毎月発行の事業所便りに利用者担当職員の手紙を添えて送付し、様子を知らせています。年に一度家族報告会を開催し、家族の発表を行っており、職員と気軽に何でも言って貰える関係を築いています。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で職員から出た意見を集約し、毎月行う職員会議等に対応している。また、個別に意見を吸い上げ運営に活かしている。	管理者は毎月のユニット会議時や日常業務の中で職員の意見や提案、相談を把握し、業務改善や就業環境整備に繋げています。法人の研修が毎月行われており、更に、職員希望の研修に法人の費用負担がある等、職員育成に取り組んでいます。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	外部研修の参加に対する働きかけや参加した内容の報告に対しての評価等によりやりがいや向上心に繋げている。(現在はコロナ渦の為オンラインで参加)		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会や法人内学習会(現在はコロナ渦の為オンライン)に積極的に参加参加して知識の習得に働きかけ、意見の出やすい会議の調整がなされている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会に参加して知識の習得に働きかけ、そこで得た情報等を持ち帰り職員会議で他職員に伝達して質の向上を図っている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	個人について知るためモニタリングの実施し、利用者様の話の傾聴、要望添った援助、介助を行いコミュニケーションを図っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族より、御本人の自宅での様子や状況を教えて頂き、御家族や御本人の要望、今後どのように生活して頂きたいか等聞き取りを行い、援助を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御家族、御本人の思いを聞き、必要に応じた支援、情報提供に努めている。他事業者からの協力、指導支援も頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	自身で行えることは行って頂きながら、支援・介助が必要な場合は援助させて頂いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	身体情報、生活情報を伝え、チームである関係が築ける様御家族に協力を頂きながら利用者様を支えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	通り慣れた場所へ、ヘアカットに出掛けたり夏祭りへ出掛けられるよう援助している。(現在はコロナ渦の為自粛している)	コロナ禍以前には友人が訪ねて来たり、希望の美容室に出掛けたり利用者のこれまでの関わりを大切にされた支援に努めています。町の図書館車が定期的に来て好みの本の貸し出しをしています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士のコミュニケーションが円滑に行えるように、スタッフが中に入り、余暇活動等を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了しても、行事の時等、参加して頂けるように声掛けを行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の利用者様とのコミュニケーションで気持ちを知る努力をしている。また、御本人より引き出せない時には御家族に御協力を頂き、意向に沿える様に努めている。	職員は日常の利用者との会話や様子から意向の把握に努めています。無反応や意識の無い利用者にも顔を見て話しかけ続ける事で反応が出て来るように成る等の取り組みを重ねています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	基本状況の提供を頂いたり、御家族様、知人様、御本人よりお話を聞かせて頂き、利用者様御本人が生活しやすいよう情報収集に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	評価を行い、個々の状況を知り、ケアが行えるようミーティングにて周知し、努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にケアマネージャーとのモニタリングやカンファレンスを行っている。	利用者、家族の意向を基に、利用者担当職員によるアセスメント(ケアチェック表)や計画作成者によるモニタリング、職員が参加してのカンファレンス、医療関係者の意見を参考に、状況に即した介護計画を作成し、定期的に見直しを図っています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の毎日の様子を個別に記録し評価に繋げている。また、スタッフに周知し、援助に繋げている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム内や他事業所等で、個々の身体状況に応じたりハビリを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で活動している方々に行事に参加して頂く様働きかけたり(現在はコロナ禍の為自粛)利用者様が入所前からの行きつけの美容室の方に着て頂いている町内巡回のバスによる本の貸出サービスも活用している。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医だけでなく、御家族の協力のもと、専門医へ受診も行い、医療連携・介助させて頂いている。	専門医への受診は家族が対応し事業所は状況報告を提供して家族と協力しながら行っています。法人医師、看護師により毎日、往診が行われ利用者一人ひとりの健康管理が行われており利用者の安心に繋がっています。生活機能向上を図るため作業療法士、理学療法士の指導のもとレックプレスやレッドコードなどにより個々に合った運動機能向上に向けて支援しています。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎朝、医師・看護師が往診時に身体特変があれば報告を行い、処置・対応を行っている。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	個々のADL状況、既往歴などをまとめ、入院時には病院関係者に即時最新の情報提供を行えるよう緊急持ち出しファイルを作成している。また、退院時には治療内容など身体状況について情報交換、相談できる関係作りをしている。			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、介護士、御家族と医療相談を実施し利用者様の状態にあったケアを行っている。また、御本人、御家族の希望に添った終末期を迎えられるよう援助している。	入居時に看取りに関する指針により利用者、家族に説明し同意を得ています。時期が来たら利用者、家族の思いや意向に添いながら、医師を交えて話し合い、連携しながら支援に取り組んでいます。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人全体で連絡網を作り直ぐに連絡が出来るように準備している。利用者様の急変時に備え緊急持ち出しファイルを用意している。全職員が定期的に救命救急講習を受けている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を実施し、近隣の方々に協力御支援頂いている。	消防署立会いのもと日中想定で避難訓練を実施しています。災害時には赤い回転灯やサイレンが鳴り近隣に知らせるようになっていきます。地域住民が緊急通報装置に登録されており災害時の協力体制が整っています。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	他者に聞かれたくない内容の話(排泄、悩み、相談)などは声のトーンに気を付け声掛けのタイミングをはかり、対応場所にも配慮するなど対応している。	職員は利用者の尊厳を尊重し、言葉使いや対応に注意を払い、利用者の立場に立った介護の提供に取り組んでいます。介護記録の保管にも注意を払っています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ただ生活するだけでなく、利用者様が何を望んでいるかを考え声掛けを行ったり希望を表しやすい環境作りを行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様の気分や体調を伺いながら個々人の性格を考慮し上手に言葉で意思表示出来ない方には表情から読み取るなどスタッフの都合ではなく利用者様を優先してペースに合わせた支援を行う。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様個人に合わせた整容、介助を行っている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の好き嫌いの食事の聞き取りや個人に合わせた食事形態での提供など工夫を行っている。家事活動等を行っている。	法人の管理栄養士により献立が作成され、栄養指導個別記録により利用者一人ひとりの摂取カロリーに沿って計算された分量で調理されバランスの取れた食事を提供しています。利用者は職員と一緒に後かたづけ等、出来ることを行っています。誕生日や行事食などは利用者の好みを聞き楽しい食事になるよう取り組んでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士と連携をとり、個人の栄養状態に合わせた対応を行っている。水分、食事摂取量チェック表を記入しスタッフにも周知・把握している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個人の能力に応じて介助、援助を行い清潔感を保つ。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	水分・排泄チェック表を活用し個人パターンを把握し、トイレ誘導等の支援を行っている。また、拒否が強い利用者様に対しては心理状況を確認し個人にあった自立支援を行っている。夜間は安否確認時に状況の確認、パット交換を行い覚醒時には声掛け誘導をしている。	水分摂取量や排泄記録を作成し利用者のタイミングを把握して声掛け誘導や見守りでトイレでの排泄支援を行っています。夜間のポータブルトイレやオムツなどの衛生用品は利用者にあった物を使用し快適に過ごせる様に支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分、食事摂取状況について把握し、起床時の水分の提供、個別に合わせた運動を行うことで排便の促しを行っている。慢性的な便秘には医療と連携を行い、薬の処方、看護師による処置にて溜め込まない対応をしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴表にて頻度を確認し御本人の希望をお聞きした上で入浴されている。また、拒否のある方に対しては声掛けや対応、時間などこれまでの生活習慣を考慮し応じて対応している。	週2回を基本に利用者の希望や状態を考慮し2人介助、同性介助、清拭など安心、安全に入浴できるよう取り組んでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況をみて、臥床時間を取っている。夜間帯は利用者様のペースで居室に戻り休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬については用法、用量、副作用について理解し、服薬漏れ、誤飲のないよう対応している。体調を崩された際の頓服、調整後の新規服薬については業務日誌に記載し引き継ぎを行い周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御本人の趣味を活かした活動や嗜好品の提供を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルス感染症予防の為、外出支援するとが出来ない状況である。	今年度は外出を制限しており、お祭りや買い物等の個別外出は出来ない状況になっていません。気候が良くなると、近隣への散歩や日光浴で気分転換するよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	認知機能が進み、自身でお金の管理が出来ない状況ではあるが、必要な場合は直ぐに出せるよう管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればホームから電話を掛けたりして対応している。手紙を書くことが難しいため、お便りにてスタッフが現状報告している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせて施設内の装飾を行ったり心地よく生活が出来るよう毎日清掃を行っている。	共用空間には季節ごとの飾り付けや行事の飾りを職員と一緒にしています。温湿度には加湿器や濡れタオルなどで対応し居心地よく過ごせるよう配慮しています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースでは座る位置など利用者様全員が出来る限り納得できるよう配置し、利用者様が寛げる空間になるようスペースの取り方や家具配置を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、使い慣れたものを持参して頂いたり、ご本人の好みの装飾や居心地のよい環境作りを行う。居室内移動等がしやすいように環境整備を行う。	居室にはクローゼットが備え付けられテレビや筆筒、椅子など使い慣れた物を配置し、家族写真などを飾って今までの生活習慣が継続できるよう支援しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様が出来る事、わかる事を全スタッフが周知できるよう引継ぎ等にて情報共有をしている。引継ぎの際にはその時の様子、気を付けていることも伝えていく。		